

リプラ f スタンド（立上げ壁） 資材施工概要

南出株式会社

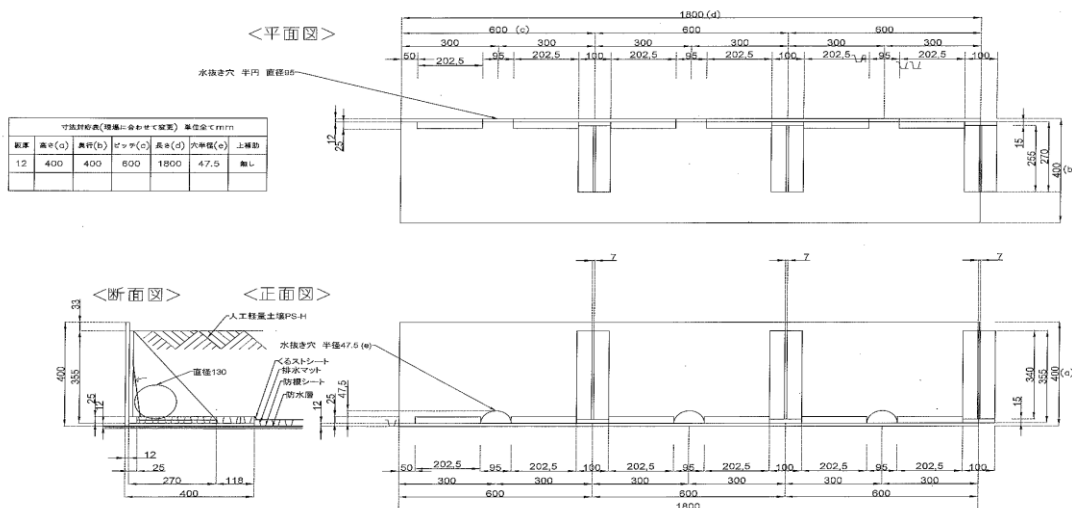
■資材の特徴と、基本的な寸法

1、 A. 「排水マット下敷き形式」リプラ f 立上げ壁(リプラ f スタンド)

(H400mm の場合が下記/他寸法も自在に製作可能)

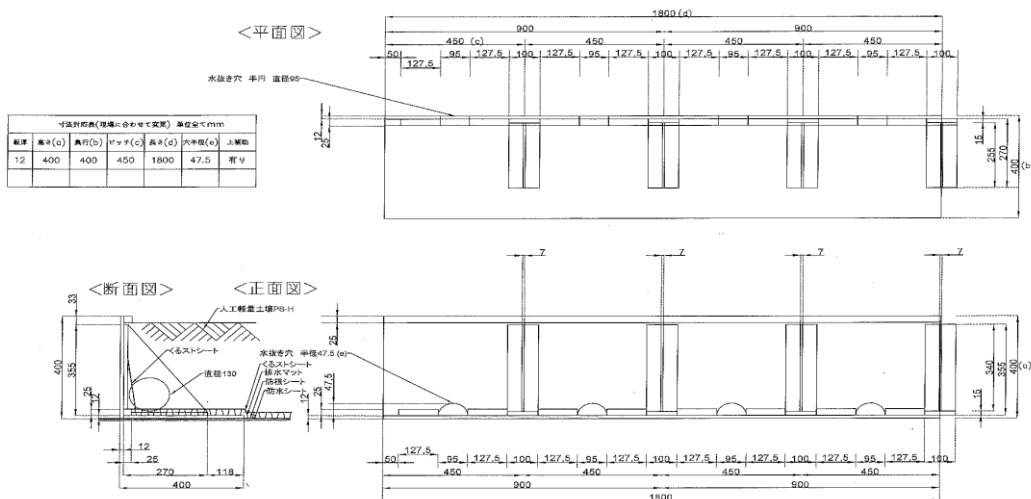
エコノミータイプ

CAD 図



補強タイプ

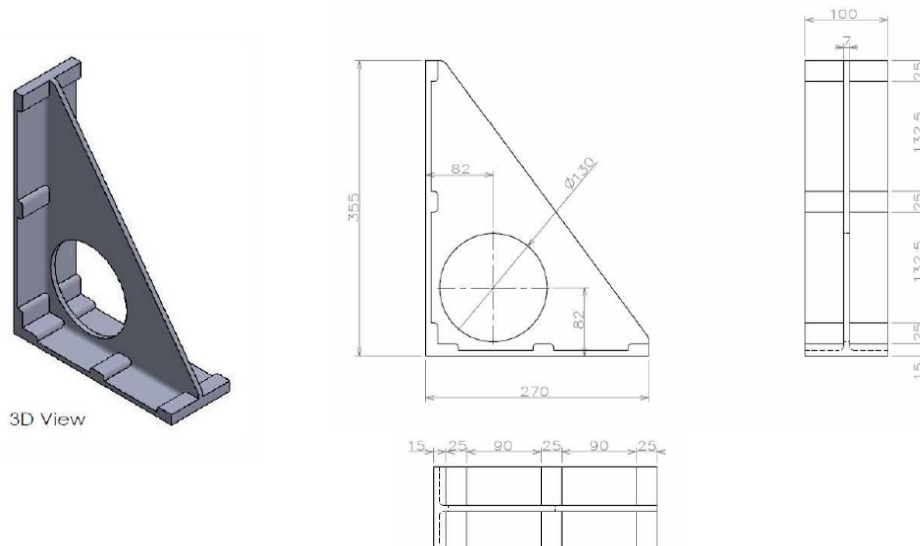
CAD 図





2、三角ジョイント材 (A, B 共に同じ資材を使用)

必要な場合は、三角ジョイント材にあいている穴の中に暗渠管を通す



■資材のパターン2種類

リプラ f 立上げ壁には、下記の2つのパターンがある。

排水パネルとの兼ね合いや、他の箇所との兼ね合いでどちらを使うかご検討頂きたい。

どちらでも良い場合は、B「水抜き穴部 底板抜き形式」をお勧めしている。

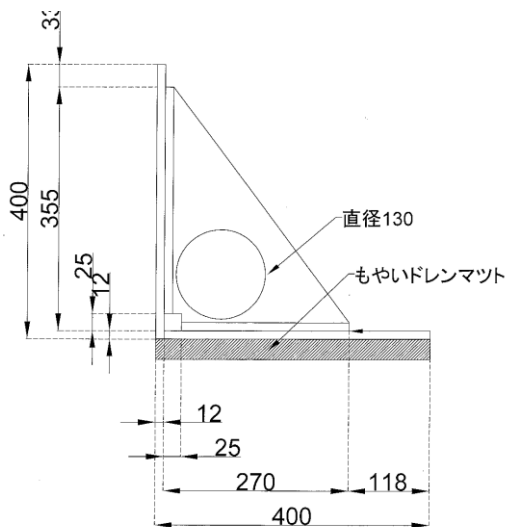
A. 「排水マット下敷き形式」：排水パネルの上にリプラ立上げ壁を載せる

- 特徴 : 立上げ壁の底板の下に排水マットがあるため、水はけが良い
製造時、排水マットの高さに合わせて立上げ壁の底板の下の空間の高さを変える
(25mm～50mm が基本)
- 注意点 : 発泡スチロール状の排水マットは土の重みで厚さが減ってしまう場合があるので、立上げ壁の下に敷く排水パネルは、「ヘチマロン」 or 「もやいドレーンマット」のように、形状の変化を起こさないものを使用の方が安全である。

断面図

CAD 図

もやいドレンマット



B. 「水抜き穴部 底板抜き形式」 : リブラ立上げ壁自体が排水促進機能を持つ

特徴 : 立上げ壁の水抜き部の底板を切り落とすため、立上げ壁自体が排水機能を持つ
立上げ壁の底板の上に排水マットを敷く

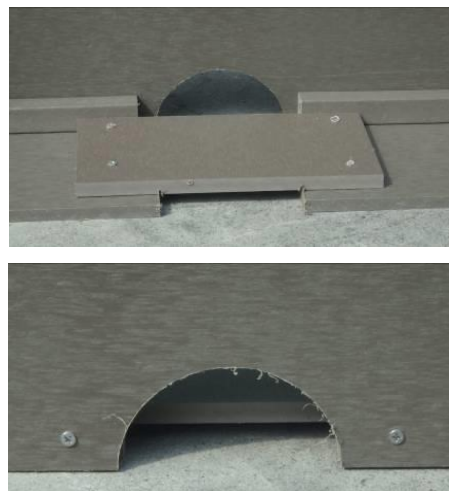
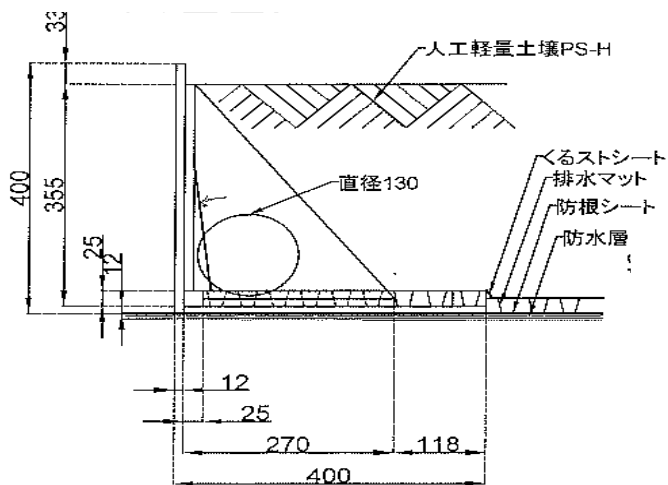
注意点 : 立上げ壁の三角補強板の部分の排水マットを切り込む必要がある
水抜き穴は内側の水は排水するが、外側の水は、板厚 12mmt 分は外側に溜まる
ので注意すること

水抜き穴の下板を切り落とし、立上げ壁の外側の水も溜まらない様にする方策

断面図

CAD 図

立上げ壁 水抜き穴



1、排水パネルの設置

- A. ヘチマロン or もやいマットを敷き、その上にリプラ f 立上げ壁を設置する
(排水パネルの高さにあわせて、リプラ f 立上げ壁の下の底上げを製造時に調整)
- B. 「水抜き穴部 底板抜き形式」の場合は、排水パネルは立上げ壁施工後に設置する

- A. もやいドレーンを敷いた場合のイメージ
- B. 「水抜き穴部 底板抜き形式」のイメージ

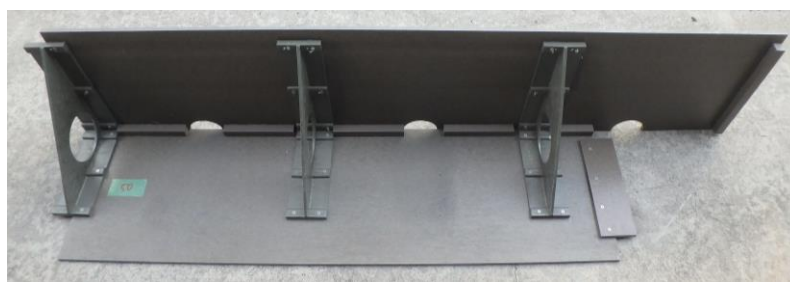


2、三角ジョイント材での接続

- ・三角ジョイント材に接着剤ミラクル4を塗布する
- ・立上げ壁が綺麗に通るように、レベルを最終微調整し、三角ジョイント材を繋ぎの部分の真ん中に置き、ビス留めする。(接着ビス留めする) その際、立上げ壁と立上げ壁の接着部分に隙間が開かないように留意する

3、直角部分の接続

- ・立上げ壁を置き、角部のジョイント材である 25x25mm の角材を仮置きする
- ・角材を、実際の壁の高さにあわせて裁断する
- ・立上げ壁と角材を接着・ビス留めする (下写真の如き商品を事前に準備すれば、ビス止めだけで、仕上る)



4、鈍角部分の事前成形 (直角部分の事前成形)

- ・正確な角度が解かれば、鈍角スタンドも製作できます。(写真はダブル板だが、シングルでも製作できます。両側長さも自在に変更可能です。)
- ・直角スタンドも製作できます。

